

いのちを大切にし、守る教育活動の在り方 －「二葉ネット」の活用－

新潟県新発田市		● 活動名 二葉小学校地域連携ネットワーク会議		● 関係する学校名 新発田市立二葉小学校	
開始年度	平成 26 年度	学級数	13 学級	児童・生徒数	270 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	NPO法人ふるさと未来創造堂
ボランティアの数	登録人数 103 人	属性	自治会長、民生児童委員、PTA役員、地域住民		
参考 URL	http://futaba.shibata.ed.jp				
● 連絡先	新発田市立二葉小学校			☎ 0254-22-2164	

● 体制図



● 活動の概要・経緯
二葉小学校区は、昭和41年、42年と2年続けて水害による浸水を受けており、地域は避難や集団移転を経験している歴史がある。さらに新潟地震から50年、中越地震から10年という節目の平成26年度に完成した新校舎での避難の在り方を見直す必要が出てきた。そこで二葉小学校では、様々な教訓を風化させないよう、子供に「いのち」の大切さについて学習する機会を教育課程に位置付けた。このとき保護者や地域、関係機関と学校とが連携・協働し、各々の役割と責任を果たしながら、地域社会全体で子供の「いのち」を守る仕組みづくりを進めた。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 学区内町内会をはじめ、「おやじの会」「図書ボランティア」等、健やかな子供の育成のため、様々な団体が存在する。これら散在する主体をネットワーク化し、各々の持つ教育力を一層高めるため、「二葉小学校地域連携ネットワーク会議（二葉ネット）」を設立し、定期的に会合を行っている。
- 「『いのち』を大切にし、守る」教育活動の充実を学校経営の中心に据え、「食育」「道徳教育」「防災教育」「安全対策」の四つの柱から教育課程を編成している。また、これらの活動において、地域の人材や教材を積極的に活用するとともに、企画段階から「二葉ネット」が関わっている。（1泊2日の防災キャンプや学校・地域一斉避難訓練、炊き出し訓練、引渡訓練等）
- 「新潟県防災教育プログラム」の自校化を図り、参観日等に公開している。

【実施にあたっての工夫】

- 「いのち」の教育全体計画や年間指導計画を作成し、教育課程に位置付けて、子供や保護者、地域住民、職員などから適宜評価を受け、PDCAによる継続した活動を行っている。
- 「『いのち』を大切にし、守る」をテーマに、学校行事や児童会活動に取り組んでいる。子供が主体となる「いじめ見逃しゼロ集会」を開催したり、年間20回程度行う縦割り班活動「二葉タイム」を実施したりして、自分も相手も大切にすることを育もうとしている。
- 学校に「地域連携室」を設置し、地域の方々や関係団体等に、気軽に学校を利用してもらうようにしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 取組を通し、保護者や地域は、自発的に子供を守ろうとする意識が高まってきた。例えば暴風雪警報が出されたとき、「どこに立つのがよいのか」「誰に連絡すればよいのか」などを即座に話し合い、翌日の子供の登下校を見守った。
- 学校と地域の一斉避難訓練を進めるに当たり、地域の自主防災組織の組織率が、平成27年度初めの33%から、平成29年度には100%となった。学校の取組が、地域の変容にもつながった。
- 1泊2日の4年生防災キャンプには、平成28年度は児童40名に対し、大人57名が、平成29年度は児童45名に対し、大人52名が参加、支援した。

● その他

- NPO法人ふるさと未来創造堂や新発田市地域安全課、新発田市社会福祉協議会等からの専門的な指導・助言を受けながら、活動を推進している。



川に流される体験



地域・学校一斉避難訓練

ポイント

かつての災害で得た教訓を活かし、地域一体となって推進する防災教育の活動が、地域の連帯と「子供を守る」という意識形成につながってきており、素晴らしいですね。